

## 茂木 秀 選手・楠本 羽翼 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

**1 GK**

も ぎ し う  
**茂木 秀 選手**  
(24歳)

ホームタウン応援大使  
多治見市  
ニックネーム  
モギュー

神奈川県横浜市出身、身長195cmは両親譲りの武器だ。横浜市立中川中学校時代に町クラブの MKFCに加入し、ゴールキーパーになった。中学2年で身長は190cmに達し、中学3年で現在の195cmにまで成長した。特別大きな体で、体育祭の騎馬戦では相手チームの帽子を全部奪って勝った。同級生8人の小さなチームだったが、県大会でジャイアントキリングを起こし初優勝した。その後、桐光学園高校に進学した。サッカーの名門、桐光学園の出身者には、元日本代表の中村俊輔や藤本淳吾がいる。一学年上には、小中高が同じで親しい小川航基(横浜FCで昨年のJ2得点王)がいる。レベルの高い環境で技術を磨き、高校3年で再び県大会優勝を果たした。

2017年セレッソ大阪に加入し4年間素晴らしい環境でプレーした。練習ではひたすら真面目で向上心の塊であるが、ピッチを離れると、オチャラケで明るい性格である。セレッソ大阪時代の最大の財産は多くのトッププレイヤーの選手達と練習が出来たことである。特に衝撃的だったのは柿谷曜一朗選手のボールさばきの神技であった。ボールが足に吸い付くというのを初めて見た。駆け引きやタイミング外しは素晴らしい、大いに勉強になった。その後セレッソ大阪からレンタル移籍として町田ゼルビアで1年、水戸ホーリーホックで半年、FC今治で半年プレーした後、FC岐阜に完全移籍を決断した。ここで活躍する強い決意と覚悟を持って加入した。

FC岐阜は、加入当初はチーム内での力の差や纏まりがないこともあったが、クオリティーの高い選手が多く、試合を重ねることに、それぞれに自信がつきチーム全体のクオリティーや精度が上がって現在はいい状態だと感じている。はじめはスタメンとそれ以外という感じがあったが、天皇杯で普段試合に出でていないメンバーが戦列に加わって、J2の清水エスパルスに競り勝ったところから、チーム内で非常に良い競り合いが起こっていて、若い選手達も活気づいている。

昨年のワールドカップの森保監督の新時代を頂いて、今年の自分のスローガンに『モギノシンジダイ』と掲げている。ホームはもとよりアウェイにも大勢のサポーターが来てくれて、背中を押してもらっているので、いつも勝利で感謝を表わせるよう皆で頑張ります。そう誓った「モギュー」の活躍に期待している。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

**28 FW**

くすもと つばさ  
**楠本 羽翼 選手**  
(22歳)

ホームタウン応援大使  
白川村、東白川村  
ニックネーム  
つば

名前は、羽翼と書いてつばさと読む。世に羽ばたき、もっと羽ばたくようにと父が名付けてくれた。三重県四日市市出身、両親と兄、姉の5人家族。四日市市立羽津小学校1年生の時に羽津少年団でサッカーを始めた。同じ少年団の5年生に素晴らしいサッカーが上手い憧れの選手がいた。その選手は名古屋グランパスジュニアユースを経て、ドイツ、オーストリア、スペイン等で活躍した。その人を追いかけるようにサッカーに打ち込んだ。そして羽津中学校時代はクラブチームのFC四日市に加入了。その後、愛知県東海学園高等学校に進んだ。そして大学は、多くのプロサッカー選手を輩出し、東海地区のトップレベルである東海学園大学サッカーチームを選んだ。大学1年生の最後にトップチームに入ったのをきっかけにプロ選手を目指そうと決意した。同期には、FC岐阜の和田選手とカターレ富山の伊藤選手がいた。2学年上では4人、3学年上にも2人がJリーグに加入していて、競争相手ではあるが人生の先輩として大事にしている。

FC岐阜に加入して良かったと思うのは、ほかのチームに比べて経験のあるベテラン選手が多く、毎日の練習で吸収できるものが多いと感じている。アドバイスをくれたり勉強になることが多く、大変励みになっている。自分の武器は足の速さであり、チームでもトップクラスの時速35.5kmで、フォワード、サイドハーフ、サイドバックもこなせる。大学の監督から『一番走れる選手になれ』と言われたことを愚直に実践している。まだ、リーグ戦には出場していないが、天皇杯の2回戦清水エスパルス戦に出場出来て嬉しく思っています。今のFC岐阜が好調なのは、スタメン組もサブ組も関係なく全員がやる気を全面に出てチーム一丸で頑張っているところにあらわれている。

好きな言葉は、『悩む暇があったら動け』であり、自分自身も試合に出てチームに貢献できるように一生懸命練習に励んでいる。人を笑わせるのが得意で、一発得意技は「変顔」と言ったが、出来上がりは「超ハンサム顔」でどちらもモテモテ顔で羨ましい限りのお茶目な人柄である。これからも活躍を大いに期待している。